

医師・看護師・介護職員的大幅増員を 日本医労連増員闘争ニュース

第 89 号
2010 年 5 月 13 日
日本医労連増員闘争本部
TEL: 03-3875-5871
FAX: 03-3875-6270

山形 12日記者発表、15日のナースウエーブ 県内4カ所をアピール

看護職員「ミスある」9割

県医労連調査 厳しい実態浮き彫り

県医療労働組合連合会（県医労連）今井敏彦委員長は12日、組合員の看護職員を対象にした健康・労働実態調査の結果を発表した。9割近くの職員がこの3年間にミスやニアミスを起こし、妊娠中の切迫流産経験者が3割を超すという厳しい実態が浮き彫りとなった。

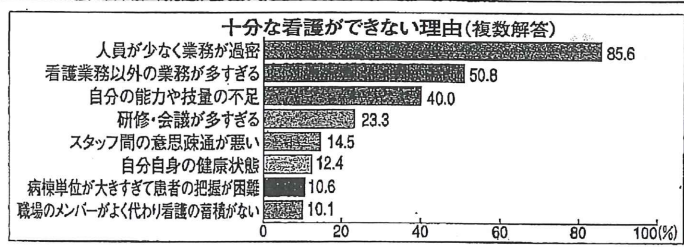
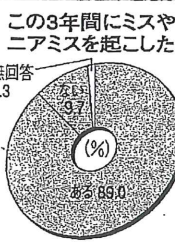
アンケート結果によると、この3年間にミスやニアミスを起こしたことが「ある」と答えたのは89%。ミスの原因は「慢性的な人手不足による医療現場の忙しさ」が最も多く85.5%、「交代制勤務による疲労の蓄積」が34.3%、「看護の知識や技術の未熟さ」が29.6%と続く。

メンタル障害で休職・治療中の職員は23.7%で、仕事に強い不満や悩み、ストレスを感じているのは74%。常用している薬の有無に対する回答では、使用していない職員が38.8%にとどまり、中には睡眠剤5.1%、精神安定剤3.3%、抗うつ薬1.2%もあった。

現在の健康状況は46.2%が「非常に不調」「やや不調」と答え、自分の健康状態について「不安」「大変不安」「病気がち」と答えたのは72.1%に上った。一方、2006年4月以降に妊娠した職員（237人）を対象にした状況調査では、49.8%が「つわりがひどい」とし、35.4%が切迫流産を経験していた。

また、55.9%が「十分な看護が提供できていない」と回答。その原因は「人員が少なく業務が過密」（85.6%）、「看護業務以外の業務が多すぎる」（50.8%）、「自分の能力や技量の不足」（40%）」（50.8%）、「自分の能力や技量の不足」（40%）」などが多かった。

調査は、去年11～12月に実施。県内の病院や老人保健施設、特別養護老人ホームなどの看護職員（保健師、助産師、看護師、准看護師）を対象に行い、1383人から回答が寄せられた。



山形新聞 5月13日